

# 綾瀬川エリア

**バードサンクチュアリ A-1**  
新栄町団地東側の綾瀬川右岸一帯は、野鳥の聖域です。野鳥の好む約40種類の木を植えた「鳥と友だち広場」が整備されています。  
周辺では、カルガモ、コサギ、シラコバト、ハクセキレイなどの野鳥が美しい風景とも観察できます。

**くわい田 A-2**  
草加の特産くわい田は明治初期から本格的に栽培が始まり、現在も主として新田地区で栽培されています。6月下旬に植えつけられ11月下旬から2月にかけて収穫出荷されます。

**綾瀬川浴池 (あやせがわんどろ)**  
市の北部では西から流れ、その後南下する綾瀬川は、昭和30年代まではホテルが生息するきれいな川でした。近年の再生計画により、水は美しく、水が湧き、流域は市民の憩いの場となっています。  
新田駅からバードサンクチュアリに続く綾瀬川沿いは、桜が咲き、お花見の名所となっています。 A-1~3

**旭神社 (あさひじんじゃ) A-3**  
水川神社と呼ばれてきました。明治40年(1907)に社号を改めています。本殿は江戸中期のもので、市指定文化財の尊厳があるほか、境内には参道入口の力をはじめる石造物があります。  
また、境内にはアサで作りだされた、毎年10月に焼つくり(焼ねじり)といふ行事が行われます。

**ウォーキングコース**  
コース1周 約7km 約3時間  
サブサンクチュアリ  
バードサンクチュアリ

**ウォーキングアドバイス**  
疲れたら、無理せず休憩をとりましょう。

# 柿木・そうか公園エリア

東武スカイツリーライン 新田駅東口より 東武バス新11乗車 12分「そうか公園下車」  
獨協大学前(草加松原)駅東口より ハリホリくんバス乗車 14分「そうか公園下車」

**東漸院 (とうぜんいん) A-5**  
室町時代(西暦1500年頃)に、定額によって創建されたといわれる市内最古の寺です。市指定文化財の山門は天明2年(1782)の建立といわれ、山門の左手の業師堂には高野山の木食僧・恵昌の作と伝わる業師如来像が安置されています。

**そうか公園 (そうかこうえん) A-5**  
総面積17.8haの広大な園内には、滝や沢、せせらぎのある四季の森や市民の森、遊歩道、多目的運動広場、テニスコート、野鳥や水鳥の集まる移築池などがあります。約300種、2万5000本の木々と樹木、花などがあり、野鳥や昆虫を観察できる自然の宝庫です。公園内西側の八条用水沿いにある桜並木は市内の桜の名所の一つとなっています。

**女体神社 (にょたいじんじゃ) A-5**  
筑波山の女体神社を信仰していた豊田城の城主豊田氏が、落城後柿木を安住の地と定め、筑波山に向けて北向きに建てられたといわれる神社です。また、郷土の作家・豊田三郎の文学碑もあります。



**ウォーキングコース**  
コース1周 約5km 約2時間  
そりか公園  
院新道神社  
公園

**ウォーキングアドバイス**  
帽子を着用し、熱中症に気を付けましょう。

# 谷塚エリア

**辰井川10橋 (たけいがわじゅうきょう) CD-2**  
辰井川は昭和56年から6年間をかけて掘削された川です。川にかかる橋には、「わたる」という龍龍のほかに、「ながめる」「ふれあう」「ほころ」という要素を入れ造られ、地域の歴史と周辺の自然と調和する個性豊かなデザインがほどこされています。  
そのうちの6橋は建設省(現在は国土交通省)の「手づくり郷土賞」ふるさとが誇りとする橋部門を受賞しました。

**浅間神社 (せんげんじんじゃ) D-3**  
江戸時代から富士山を祀る神社として厚い信仰を集め、多くの人に親しまれています。正式名称は富士浅間神社。  
現在の本殿は天保13年(1842)に再建されたもので、市指定文化財となっています。毎年7月の第一土曜日には宵祭り・祭礼が行われます。

**むじなの森跡 (むじなのもりあと) D-1**  
昔、むじなが住んでいたといわれる新田町の旧家の広い敷地には、多くの大木があり、村人から「むじなの森」と呼ばれていました。その森跡に今もムジナがいた大木が残っています。

**毛長神社 (けいちんじんじゃ) D-1**  
創建は不詳ですが、ご神体に「女性の髪」の毛を祀る珍しい神社で、享和10年(1725)9月25日に社殿修築の記録があります。  
伝承によれば、村の長者の屋敷跡ともいわれ、髪は主はその娘(別説は素戔嗚尊の妹)といわれています。鳥居は水戸川家の江戸屋敷から移設したものです。

**ウォーキングコース**  
コース1周 約7km 約3時間  
谷塚  
毛長  
むじなの森跡

**全域図 (交通案内)**

# 葛西用水エリア

東武スカイツリーライン 草加駅東口より 東武バス草加09乗車7分 稲荷三丁目下車

**ウォーキングコース**  
コース1周 約2km 約1時間  
稲荷三丁目  
稲荷神社  
稲荷西公園

**桜スポット**  
草加市内にはお花見に最適な場所がたくさんあります。葛西用水桜並木とそうか公園では、例年、桜の時期(4月頃)に桜並木見物大会が行われ多くの人でにぎわっています。(主催:草加市観光協会)

**葛西用水 (かさいようすい) CD-5**  
享保4年(1719)、埼玉縣東部の水田灌漑のために造られた用水路です。行田市の利根大堰から足立区へ伸びており、市内では青柳から稲荷の約3.5kmを流れます。かつては水田を潤していたが、都市化により、今では市民の憩いの水場として親しまれています。新橋付近は1.3kmにわたって約400本のツメヨシが並ぶ綾瀬川沿道では桜の名所となっています。

# 草加まち歩きマラソン

国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」

「せんべい・皮革・ゆかたのまち」

ようこそ 草加へ

元禄2年(1689)3月27日、46歳の松尾芭蕉は、門人の河合曾良を伴い、江戸深川を旅立ちました。後に日本を表す紀行文『おくのほそ道』として結実するこの旅は、日光、白河の間から松島、平泉、象洞、安曇野、金沢、敦賀と、東北・北陸の名所旧跡を巡り、美濃国大垣に至る600里(2400km)、150日間の壮大なものでした。「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人哉。舟の上こそ生をうかべ馬の口とらえて老をむかふる物は、日々旅して、旅を極とす。」深川を出た芭蕉は千住まで舟で行き、そこで見送りの人々に別れを告げて歩き始めます。「若生で帰らばと定なき頼の末をかけ、其日漸早加と云雀にたどり着けり」こうして芭蕉は、肩にかける荷物の重さに苦しみながら2里8丁(8.8km)歩き、日光道中第2の宿駅だった草加にたどり着きました。「おくのほそ道」の旅は、このあと、草加から東北へと拡がっていくことになるのです。

制作発行: 草加市  
協力: 草加市観光協会  
草加宿内人の会  
〒340-8550  
埼玉県草加市高砂1-1-1  
TEL 048-922-0151(代表)  
令和5年1月

再生紙を使用しています。  
リサイクル適性(A)  
この印刷品は、印刷時の環境にやさしいペーパーリサイクルを使用しています。